



2011年5月発行

# サポート通信



## 活動成果発表会を開催 10グループが1年間の活動を報告

第12回千代田まちづくりサポート活動成果発表会が、4月17日(日)、ちよだプラットフォームスクウェア4階会議室で開催されました。

本活動成果発表会は当初3月12日に予定されていましたが、3月11日の地震発生のため、4月17日に延期されました。それに伴い、会場も4階会議室に変更となりました。いつもと少し違う雰囲気の中、助成を受けたトライアル部門2グループ・一般部門8グループが、この1年間の活動内容について報告しました。

今年度は審査会委員から「今年はレベルが高い」との声が挙がるなど、総じて完成度の高い発表が多く見られました。また、バリアフリーの観光マップ作り、マンション住民の地域参画の可能性をさぐる活動、エイブルアート講座の開催など、今まで以上に多彩な視点からの活動がみられたのも特徴でした。

普段より小さな会場だったためか、より親密な空間での発表となり、会場から贈られる拍手もいっそう大きく暖かく感じられる会となりました。



## CONTENTS

### 活動成果発表表

#### [トライアル部門]

- 四谷活性化プロジェクト 2
- 千代田の野鳥と自然の会 2

#### [一般部門]

##### (1回目)

- Live With Dream 3
- 神田, SUM 4
- エイブル・アート・ジャパン 5

##### (2回目)

- 結びの会 5
- EAST WIND 千代田 6
- かんだもん 6
- 神田人 7

##### (3回目)

- 神田探偵団 8

- 審査会委員講評・総評 9
- ニュース 11
- 賛助会員一覧 12

## 審査会委員 (敬称略)

### 会長 早田 幸

(早稲田大学社会科学総合学術院教授・工学博士)

### 副会長 窪田 亜矢

(東京大学大学院高学際研究科准教授・工学博士)

### 委員 田熊 清徳

(神田芸芸祭 実行委員長)

### 谷 真理子

(千代田区青少年委員)

### 中嶋 利隆

(大手町丸の内有楽町地区再開発計画推進協議会 事務局長)

### 新田 英理子

(特定非営利活動法人日本NPOセンター 企画主任)

### 三原 久徳

(千代田区まちづくりサポーターズクラブ 会長)

### 浅古 清

(千代田区政策経営部特命担当部長)



1

学生と地域住民の交流を深め、麴町・紀尾井町地区の活性化に貢献する  
（四谷活性化プロジェクト）



学生と地域との関係が希薄な麴町・紀尾井町近辺でお互いの交流をはかることを目的とした活動を行った。麴町の現在・過去・未来について話を聴く「麴町会議」や、学生が主体的にまちに関わっていけるまち歩きを開催した。まち歩きをするにあたっては、学生にアンケートを取り、いちばん食いつきのよさそうな「グルメ」をテーマに選んだ。

しかし、活動資金を使い切ることができなかったの、返金という形をとった。

Q:反省点を見ると「できなかった」「熱意が足りなかった」が並んでいるが、こういう活動をするきっかけがつかめたこと、それ自体が一つの大きな芽。自信を持ってほしい。

Q:来年活動をつなげる人たちは確保できるか。

A:後輩を誘うなどして、継続して続けていけるような体制は作っていきたい。

Q:今後この活動を続けていくとき、具体的に何をどう改善したら良いと思うか。

A:悩んでいる。メンバーとも相談して、コンセプトを明確にし、自分たちがやりたいことは何なのかもう一度考える必要があると思う。

Q:まず「何を」「どうすれば」良いと思うか、具体案があるなら聴かせてほしい。

A:まちと学生の関わりが見えてこない。飲食店のニーズは分かったが、学生がそれにどう関われば良いか分からない。

Q:たとえば、まち歩きの結果として、MAPにまとめるなどしていないのか。何か目に見える形にするような努力をしていかないと、発展もないと思うが。

A:はい。

Q:本来、返金というのはあり得ない事態だ。トライアルの5万円も使い切れないような活動に、2万円払うべきなのかといった議論にもなってくる。また、次回助成をすべきかも考えなければいけない。そのあたりを肝に銘じてほしい。

A:はい。今後はお金をかけない方向で活動を模索したい。

2

千代田区内の野鳥情報の調査および報告書の刊行  
（千代田の野鳥と自然の会）



創立1999年から2004年までの5年間、千代田区内の野鳥を観察してきた。今年新たに観察してきた情報を加え、その結果を報告書の体裁で本として出版する。解説編46ページ、データ編236ページ、全体として290ページ程度になる予定。

メンバーには四ツ谷界隈を歩いてもらい、区内の鳥に対してただの学術的なデータに止まらない本の制作を目指した。みなさん、「身近な隣人」としての鳥という感覚をまだ持っていらっしゃることを改めて強く実感した。

Q:成果物の本は、限られた人だけではなく、広く行きわたるようにして頂きたい。それから、もっと広く人とつながってほしいと思う。

A:本には、専門家ではなく、鳥好きな人間の生の声を載せた。鳥と自分との関係で観察しているので、今までの教科書とは違うものになる。

また、人とのつながりについてだが、ぜひ色々な方を教えて頂きたい。前回の（中間）発表会などでご意見を頂き、また私たち自身もネットワークを広げなくてはいけないと思っていたので、環境関係のフォーラム



に出させて頂いたりした。

Q: トライアル部門という点でやむを得ない部分があるのかもしれない。しかし、他団体と比べて圧倒的に、別の団体とのコミュニケーションに欠けている。今の環境を守るために、まちの人に協力してもらおうといった発展がほしい。まちづくり、地域の活性化にどうつなげるか、来年は一步踏み込んでほしい。

A: 「ツバメ講座」をやろうとしているので参加募集など

を行いたいのだが、どう告知したらいいかわからない。たとえば、千代田区の広報などは使えるのか。

Q: 千代田区役所にも環境を扱う部署があるので連携することを考えたらどうか。また、観光協会に「歩くと気持ち良いコース」などの提案をすれば、千代田のPRにもなる。

A: やってみたいと思う。

## 一般部門 助成1回目

### 3

## 千代田区内のバリアフリー情報・観光マップをつくる (Live With Dream)



だれもが歩きやすいまちづくりを旨とし、メンバーが直接現場をまち歩きし、バリアフリー情報を調査する。その調査をもとにバリアフリー情報を満載した観光マップを制作した。

今回は観光マップということで、ある程度馴染みのある地域を選んだ。苦労したのは、「何をもちょうバリアフリー・コースとするのか」の基準選びだった。今回このような地図が出来上がったが、色弱の方が認識しづらい色もあるとのこと。次回はそういった方たちにも対応したものを、専門家の助けを借りて作ろうと思っている。

また、公式ホームページには地図に載せきれなかった情報を載せている。

Q: マップはどのくらい刷ってどこで配付しているか。

A: 配布場所は区役所、まちみらい千代田、千代田区観光協会、さくら案内所など。地図の存在を知った図書館から「置かせてほしい」と連絡が来たので、そちらにも置かせてもらっている。1,000部刷ったが、すでになくなりかかっている。可能であればフィードバックも加えた手直しのうえ、増刷したいと思っている。

Q: とても良い地図だと思う。欲を言えば、「オススメコース」が示してあるともっと良かった。『地球の歩き方』ならぬ『千代田の歩き方』のような、手取り足取

りコースがあるととっても楽しくなると思うので、次年度はぜひ。

A: 検討したい。次年度といえば、ホテルの情報も加えて掲載していきたいと考えている。ただ、ホームページとの情報掲載のバランスをどう取るかが難しく、今考えている。

Q: 地図を見た人からのフィードバックも加え、区とも連携をとって行けると良いと思う。

A: 実際調べてみて分かったことだが、行政は場所によって担当がごとごとく違って連絡が非常に取りにくかった。縦割り制度の弊害を感じた。

Q: 施設側にも情報を提供すると良いのでは。

A: 千代田区のお店はほとんどが優しく、調査のために入店しても嫌な顔一つしなかった。

Q: そういう良いお店などをホームページで発信すると良いのではないか。

A: はい。

Q: 今後の活動資金の捻出などについて何か考えはあるか。たとえばだが、マンション業者に情報を提供するというのはどうだろう。

A: 考えてみます。それから、区の方にぜひお願いしたいことがある。災害時の障害者のためのハザードマップなどが欲しい。せっかくこうやって調べても、災害の影響で使えない施設などがある。情報の提供をしてほしい。

Q: まったく仰るとおりだと思う。本来、こういう活動は自治体がやるべき仕事だ。いま仰ったことも含め、行政の方から情報発信を積極的にしなければならぬし、情報ももっと早めに周知すべきだと思った。また来年活動して下さるということだが、いずれは行政にまもって頂ければと思う。刺激を受けました。

A: ありがとうございます。





マンション新住民は、地域町会に参画するのだろうか？どのような方法であれば参加するのか？という視点から、地域とマンションの中間コミュニティ団体として、新しい組織づくりをめざす。

今年度は、マンション住民に「火の用心」などを一緒にやる呼びかけや、「神田歴史ウォーキング」などを開催した。神田を好きになってもらって終の棲家にしてもらいたいというのが、この活動の目的。

Q: マンションと一口に言っても様々なタイプがある。

タイプ別に仕分けしたりして、どのエリアにどのタイプがあるなどを教えてもらえれば、意識が高まるのではないかと。

A: 私の地区にはマンションが5棟あって、投資目的のワンルーム・マンションが4棟、ファミリー向けタイプが1棟ある。

「マンションを建てる場合は町会に必ず所属する」という条例ができる前に建てられたものなので、未だに町会費すら納めていない所が多い。長いあいだ交渉したが、3棟は結局納めず、今後も連携するつもりはないという通達が来てしまった。それでは埒があかないということで、神田ドットコム関連のチラシポスティングだけは許可をもらった。

Q: 震災が起きたことによって、今まで気にしていなかったことを気にするようになった。こういう時期なのでとても良い活動だと思う。震災前後で、何か変わったことはあるか。

A: 震災後、マンション住民の人は内側にこもってしまうようになった気がする。マンション住民で、神田ドットコムに参加してくれている人たちは、震災前は活動してくれたが、震災後は忙しくなって手伝ってくれなくなってしまった。

たとえば『瓦版』制作の目的は成果物ではなく、瓦版

を作る過程でコミュニティを形成し、地域のことを知ってもらおうという狙いだったのだが、震災後は仕事（本業）が忙しくなって、もうひとつの「仕事」をこなす余裕がなくなった、と言われた。瓦版制作は「仕事」という意識だったのだと知ってとてもショックだった。このことから、神田が好きな人間をいかに増やすか、「仕事」ではなくなるような仕掛けが必要だと痛感した。

Q: 印刷物にずいぶんお金を使っているが、その細かい内訳はどうなっているのか。

A: 印刷物は、マンション200戸すべてと旧住民に配布し、区役所にも置いてある。

町会はマンションを歓迎しないし、マンションは町会を歓迎しない構図ができてしまっているので、他の町会に対するアピールのために様々な場所に置くことをしている。そのために部数を増やしている。

Q: ポスティングの反応は。

A: ない。何か別の方法があれば教えてほしい。

Q: NPOの必要性に言及していた。確かに風潮的にもNPOが必要とされているので、良いことだとは思いますが、ドットスムの活動としては、むしろ「地域に生きる教育」や当たり前のことを当たり前と伝えていくこと自体を活動にしたほうが良いのではないかと。

A: あまりそういう視点では考えていない。

Q: ドットスムの役割は町会とは違うということを忘れないでほしい。また、住民に対するアプローチ力はすごいものがある。この間、神田の立ち飲み屋で飲む機会があったが、マンションに住んでいる人が、出会いを求めて一人で飲みに来ていた。「なんとなく」や「ゆるい」つながりを求めている層は確実にいるはずなので、そういう人たちの受け皿になってほしいと思う。

A: 頑張ります。





## 5

まちづくりは人づくり!「エイブルアート講座&ワークショップ」  
(エイブル・アート・ジャパン)

障害のある子どもたちを始めとした、誰もがお互いの表現を認め合い、豊かにつながる場所や機会をつくることを目的として活動している。

障害・年齢・国籍を越えた絵画教室「アトリエ・ポレポレ」、障害のある人が美術の専門的知識を学べる「エイブルアート芸術大学」、障害のある子どもと家族のための造形遊び「アトリエ・ムトト」、誰でも参加できるダンス教室「からだで表現AIR流」、千代田区に住む学齢期児童の子どもを対象としたアートプログラム「放課後支援プログラム」などを開催した。

Q: 今後(2年目)は、いかに地域の人に活動を行っていることを伝えるかを考えてほしい。当事者・参加者でない人に伝えるのも大切なことだ。協力してくれる人、ボランティアなどに呼び掛けて、いかに活動を広げていくかが今後の課題だと思う。

A: 確かに住民の方に届いていない。どうするのが方法として効果的かという議論もあり、まちの掲示板を

使えばどうだろうという意見があったのでやってみようかと思っている。千代田区にいる人々に届くような、なくてはならない場にしていきたい。

Q: 活発な活動に感服している。助成金に対する要望などはあるか。何十回という活動回数に対して40万円という額はあまりに少ないとも言える。こんなふうに使ったと教えてくれると、支援する側も支えやすいかと思う。

A: 確かに活動回数が多く、お金の使い方の幅も広いので、ピンポイントの報告ができなく、具体的なものがない。来年は、自分たちがちよだの福祉サービス情報の担い手として、情報提供する立場として具体的なものにお金を使っていくほうが良いのかなと強く感じた。成果物というところでなかなか提示しづらいところはある。

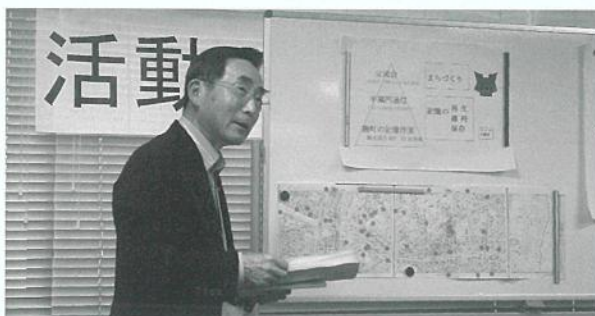
Q: まちサポの名前で信頼が得られたとアンケートに書いてあった。光栄です。具体的にどういうことか教えてくれると嬉しい。

A: 千代田区在住のお母さんたちにとって、こういうサービスを利用するとき、うち(エイブル・アート・ジャパン)だけでなく、千代田区の色々な活動を支えている団体から認可されているということで、認知度が低くても信頼をもらえた。



## 一般部門 助成2回目

## 6

心のまちづくり...昔と今の、人と街を結びあう  
(結びの会)

「今の人と人」および「世代と世代」の心をつなぐことを目的とし、交流会の開催、『半蔵門通信』の発行などを行う。『半蔵門通信』は助成金をもらって150部から3000

部に増やせたが、それでも配付するとすぐなくなってしまい、供給が追い付かない。交流会には来ないけれども半蔵門通信ファンという方も多と思われる。交流会もなごやかで順調に運営している。

Q: 私がご紹介した(ご高齢者の方)方のご家族からも、交流会に出られるときはおしゃれをしたりして、「ひきこもり」から「前へ出る」ようになった、との声を頂いた。素晴らしい活動だと思う。

A: ありがとうございます。ただ、お付き合いのある方の中には認知症が進んでいっちゃう方もあり、今後はそうしたケアやサポートも大事になってくるかと



思っている。

Q:「元住民」の発掘はどのように行うつもりか。

A:こちらから探し回るのは不可能なので、連絡を待つしかない。ただ、そうやって連絡をくださる「元住民」の方は、郷土意識がとても強いと感じている。

Q:小中学校のOB会などを追いかけていけば、発掘することも可能なのではないか。

A:はい。考えてみます。

Q:アンケートの中に「飲食費を認めてほしい」とある。その理由は。

A:会に出席される方も電車賃を使ってお越しいただい

ているので、こちらも相応のおもてなしをしたい。楽しくしたいし、おもてなしにはある程度お菓子などが必要になる。

Q:大震災アンケートの結果は、ぜひどうなったか教えてほしい。

A:東大の目黒メソッドを参考にして作った。スケールの大きなもの、歴史資料になるかもしれないので時間がかかる。

「今」体験したことを克明に残しておくことが大事になってくるので、それを使ってコミュニケーションを図っていきたいと思う。

## 7

### 千代田区の山手線東側地区を元気あふれる街に (EAST WIND 千代田)



東側地区を元気づかせるためにスポットを当て、その広報・宣伝活動を行うことを主眼にさまざまな交流はかりながら活動している。

秋葉原東部地区の現地調査を行い、飲食店舗をカテゴリ分けしたMAPを作成。協賛してもらい、協力店のレジ横などに3,000部を置いている。また、地元の公園にあるヒマラヤスギを残す活動に参加したが、伐採されてしまうことにほぼ決まったようだ。残念でならない。

Q:ヒマラヤスギ伐採の件はまことに残念だ。ぜひとも残しておいてほしい。まだ確定とまでは行っていないということだが、いかに財産かということ伝えてほしい。

千代田区の姉妹都市でもある秋田県五條目町とコラボする予定があるということだが、それなら、たとえば五條目から秋田杉を植樹して、AKB(秋葉原)とAKT

(秋田)でプロモーションなどできるのではないか。

A:素晴らしいご助言ありがとうございます。秋田杉の植樹、考えてみます。

Q:ヒマラヤスギは植えたときに何か(目的などが)あったはずだ。その辺りを掘り下げて伝えていったらどうか。地元のシンボルであることを推したら良いのではないかと思う。千代田まちづくりサポートや区からも残すことを推奨していると伝えておきます。

A:ありがとうございます。

Q:西に比べて寂しい、と仰っていたが、住民から見ればそれは「寂しい」のではなくて「落ち着いて良い」という見方もあるのではないか。静かで人情もあってコミュニティがしっかりしているまちをつくるという方向を目指しても良いのではないか。

A:アキバは夜の時間はお店も早く閉まってしまうので、わざわざ遊びに来た外国人の方などが時間を持て余すとも聞く。先日、千代田区長とお話する機会があり、そうした夜の時間帯を狙うと聞いた。確かに、そういう方向もあるかもしれないと感じた。

Q:成果物のMAPを見たら、日曜休み・LOが早いところが大半だった。そうではない所を紹介してみてもどうだろう。

A:検討します。



## 8

### 観光地としての神田を盛り上げよう! 神田を知って、来て、楽しんでもらう! (かんだもん)

神田駅周辺エリア、江戸古町の魅力を知ってもらい、遊びに来たり働きに来てもらったりするためのプロ

モーションを行う。

今回は『絵どうろう祭りぶらぶら地図』『江戸古町乙女





さんぽ（企画制作）』『昭和のまち 神田ノスタルジック散歩』などの地図を作成。近隣に勤務している人、地元の人、最近マンションに住み始めた人などから好評を頂いた。また、「夜の神田街あるき」「落語の中の神田ツアー」などのまち歩きも実施し、参加者と交流やコラボレーションができた。

今後は紙媒体だけでなく、神田が好きなのコミュニティづくりをしていきたいと思う。これからも、「よそもの」で「神田がすき」な人の輪を広げていきたい。

Q:活動をよりクリエイティブにするために、資金調達についてはどう考えているか。たとえば、神田駅西口商店街のプロモーションを「プロっぽく」やることを考えても良い団体になってきたと思うが。

A:絵どうろうまつりの地図は、西口商店街さんから制作協力費という形で若干頂いている。外部の方と少しずつ連携している。

Q:空きテナントについて調査するという話が少し出て

いたが、そうであれば不動産業者と連携するなど、新たな展開を期待する。

A:はい。がんばります。

Q:成果物のMAPがすばらしい。これは神田発のひとつの文化になりつつあり、まちサポとしても誇らしい。アンケートに、来年度以降申請しない可能性があるを書いてあるのが少し寂しい。何かこちらへの提案があれば教えてほしい。

A:団体によっては「3年まで」というのが厳しいのではないか。申請するのだったらなるべく毎回満額に近い金額をもらいたいが、それも難しい。

ただ、その一方で、もらった助成金を消化する時間が確保できないという面もあるのだが…。一団体につきいくらまでと決めて、何回でも申請して良い、としてくれれば、そちらの方が使い勝手が良いかもしれない。

Q:ほかの助成に目を向けて、上の段階に進む、という道もある。あるいは、フリーになって自由に活動するか。今後の活動の方向性を教えてほしい。

A:現時点では、ここ（まちサポ）より大きな助成の申請は考えていない。そして今後は、紙媒体だけではなく、リアルでのつながりをどんどん広めていけたら、と思っている。



## 9

### 千代田の人の輪を広げよう （神田人）



神田に居住している人たちに、住みよく・楽しい・学べる街であることをより実感してもらえるよう、人々の交流の場などを提供していく。また、高齢者の方が活動の場を得られるように情報提供していく。

今年は『ほほえみ演芸会』の開催や『マイライフノート』の配布などを行った。来年は他グループと交流を持ちたい。学生さんなどは、アイデアやエネルギーがあ

る。反面、具体性に欠けたりするので、活動趣旨が一致する団体があれば、一緒に協力してやっていきたい。

Q:旧今川中で活動しているフラダンス教室だが、今回の震災で施設が使えるかどうかの問い合わせがあったようだ。その辺りの事情はきちんとフォローしているか。

A:仕組みが整っていないのでフォローできていない。ただ、フラダンス教室に関しては、ほぼ卒業と言って良いほど自立してきたので、こちらからはあまり手を出さないようにしている事情もある。

Q:ただ活動グループを増やすだけでなく、町の相談室になってもらいたい。『ほほえみ演芸会』も、普通に開催するだけでなく、「+α」をもっと強化してほしい。

A:はい。

Q:マイライフノートは何部くらい配っているのか。

A:500部作り、現在残りが200部となっている。むやみに街頭に置いたりしても目的には沿わないので、ピ



ンポイントで高齢者の方に配りたいと思っており、高齢者の方がいらっしゃる場所を狙って配付している。来年も配りたい。現在、神保町の方で寄席を開催できるようにはたらきかけているので、そちらでも配れば良いと思っている。

Q: 渡した後のやりとりはどうか。

A: まだ考えていない。

Q: そこを考えないと、当初の目的達成は難しいのではないか。

A: 演芸会の時間を短縮して、後半はマイライフノートの使い方について説明することなどを考えている。

演芸会を何度も開催すると、リピーターの方がご

新規の方を連れてきてくださり、そこから人が増えていくことも分かってきたので、その構造をうまく活用したい。



## 一般部門 助成3回目

### 10 続・歩いて感じた「神田」の魅力を本にしよう (神田探偵団)



神田をまち歩きすることで、神田の文化・歴史を参加者に発信し、その成果を本にした。前回は神田エリアを全制覇したわけではなかったので自分の中でも不完全燃焼の部分があり、今回で残りをを行うことにした。活動の間に前回の出版物が周知されたこともあって、講演依頼を頂いたり、内神田鎌倉町会主催のまち歩きをやったりもした。本を出版することによってまち歩きが広まったのだと考えている。

Q: 参加された方に若い女性が増えたように見受けられる。

A: まち歩きの周知方法は、自分の知っている200名位にメールを送っているだけ。一度来て楽しめた人が友達を呼んでくる、というパターンがあり、そういうのは若い人が多い。

Q: まち歩きは素晴らしい。本をつくったのも素晴らしい。今後は、「印刷の町・神田」としてのネットワークなどを提供して頂ければ、もっと素晴らしい活動になると思うが。

A: 本の制作については、データ制作の大半を自分で

きるからコストダウンできた面がある。マップや冊子を作ろうとしている人は、すべてをプロにぼーんと任せてしまうのではなく、自分の個性を反映させた方が良いものができると思う。本を出版しておいてこう言うのもどうかと思うが、今はインターネットなどを駆使すれば安くできることも多々あるし、印刷にあまりコストをかけるのもどうかと…。

Q: (場内笑)

Q: 観光協会のプログライターをやっておられる。観光協会とタッグを組んで、まち歩きツアー有料版などを考えてみないか。

A: 基本的には待ちの姿勢なので、自分から仕掛けるつもりはない。旅行会社からそういう案をもらったが、商売商売するのになにか違うと思うので気は進まない。

Q: これだけ素晴らしい活動をして卒業されるのだから、後継者を、ぜひとも「立山チルドレン」を育ててほしい。

A: べ切があるのが良かった。また以前の形態に戻ってゆるゆるやっていければ良いなと思っている。





### 【田熊委員】

みなさん、半日お疲れさまでした。今回の「まちサポ」は、みなさん出来が非常に良かったと思います。どの団体も、今後もずっと継続できそうですね。

特に結びの会さんの「震災アンケート」は、タイムリーで素晴らしい。そして、少し形を変えれば、神田、SUMさん、神田人さんなども活用できるのではないのでしょうか。ぜひとも共有して、アレンジしてやって頂きたいと思います。

また、千代田まちづくりサポーターズクラブが、サポート団体支援の受け皿になって頂いて、たとえば金曜日の会合など気軽に参加できるようにして、一緒になって良い方向に持っていかれたらと思っています。



WINDさんの悲喜こもごものお話であったり、かんだもんさんが神田文化の一つの形になってきていたり、毎回感動させられます。今日は本当にありがとうございました。

### 【窪田委員】

ほかにやりたいこと・やるべきことがたくさんあり、時間がなかなか取れない中で、貴重な時間を割いてお話をくださり、本当にありがたく聴かせて頂きました。

また、阪神淡路大震災の頃から、地域にネットワークがあるというのはどれだけ貴重なことか実感させられ、色々と日本社会は変わってきました。千代田にこれだけのネットワークが編まれているのは非常に貴重な財産になると思います。みなさんが中心になって、これからもそのネットワークを広げて行ってほしいと思います。

ただ、一点感じましたのは、助成金1円でも無駄にすまいというグループがある一方で、少しその辺りの感覚がゆるいグループもあるかな、という点です。事務局サイドで話し合べき事柄かもしれませんし、助成金の使い勝手の問題もあるかとは思いますが、少し意識して行ってほしいところであると感じました。



### 【谷委員】

今日は半日お疲れさまでした。みなさん個性があり、センスがあり、とても感激しました。次が楽しみになるような、そんな会だったと思います。

こちら（審査員側）は質問などで好き勝手なことを言っておりますが、活動しているみなさんには、もっともっと様々な思いがたくさんあることと思います。どうかその思いを大切に、どんどんステップアップして、仲間を増やしながらか助け合ってほしいと思います。今回は特に仲間が増えそうな雰囲気がありましたので、どんどん活動して行ってほしいと願っています。



### 【新田委員】

みなさんの発表を聴かせて頂いて、トライアル、1年目から3年目まで、それぞれのステージの活動の様子がわかりました。特に2年目の方は本当に活動が充実してきているのが伝わってきました。助成金を使うことがネットワークを広げることにつながり、さらに次

の展開が見えてくるということもよく分かり、「継続」の重要性を実感し、私自身あらためて勉強になりました。

また、みなさん、活動そのもののステップアップだけでなく、団体・仲間づくりをどうステップアップさせていくかということに悩みを抱えておられるのだということもわかりました。人間関係の広がりや、その維持の方法、たとえばここはプロ化して稼ぐのか、それともボランティアだから続く関係なのか等々。ここで培ったネットワークを使って議論してほしいと思いますし、また、私たちの審査員も職業を公開しているので、うまく使って頂ければいいなと思います。



### 【中嶋委員】

今日は長時間御苦労さまでした。どの発表も手作り感がとても感じられ、良い意味で人間くさい取り組みであると思いました。予定していたけれどできなかった、予定にはなかったけれどこんなことができた、人もお金もない中でこんな苦労をした、など、「人の温かさ」のようなものが良く伝わってきて、良い会だったと思います。

例えば、結びの会さんの上品な雰囲気であったり、EAST





### 【三原委員】

「千代田まちづくりサポート」も今回で12年目が終わろうとしています。12年間やってきて、ストックとして良いシステムになってきた部分と、変えていかないと惰性になってしまった部分、両方を感じました。

3.11という大きな転換もあり、コミュニティというものを改めて考える時期でもあります。システム自体を鍛え直すという意味で、良いタイミングになると思うので、13年目からは改めて考え直すべきところなど含めて、みなさんと今まで以上に活発に意見交換していけたら良いと思っています。13年目どうぞよろしくお願いいたします。



発表を見ていますと、人材育成も1年目、2年目と段々育成されているし、地域の活性化も進んでいるのかなと思う反面、一つの大きな問題として、3年目以降どうしていくのかなという問題があります。たとえば、学生の方は卒業すると町を出て行ってしまったり、学生でなくとも3年の補助が切れると活動が終わってしまったりします。しかし、3年間の活動で、地域の間人関係を形成することもとても大事な要素です。そして、その人間関係は、これからの活動のうえでも財産になるものです。現実には、第1回から第12回の現在に至るまで、いまだに活動を続けている団体もあります。



ぜひ4年目以降も、いくつかの団体で協力して一つの活動をするなど、いろいろ工夫して、ぜひとも続けていってほしい。一長一短にできることではないと思うので、長いスパンで考えてほしいと思います。

それから、ぜひ楽しんで頂きたい。ただ苦しいだけでは何にもなりませんので。

そして最後に、もう一つだけ。まちサポ、ずっと見させて頂いていますが、活動が神田の方にどうしても偏りがちです。ぜひ、麴町のまちづくりも出てくると嬉しいです。

### 【浅古委員】

みなさんの発表を見ていて、力いっぱいやっておられるなあ、大変だったろうなあと感じました。なかなか「成果」というのは難しいところがあるかとも思います。「成果」って何だろう？と言うと、我々も良く分からない部分があるのも事実です。

ただ、「千代田まちづくりサポート」の大きな目的の一つは、「まちづくりの人材育成」と「町の活性化」だと私自身は思っています。

## 総評

### 【早田会長】

4月中旬というお忙しい時期に、さらに計画停電などが重なり、成果のまとめ作業などとても大変だったろうと思います。重々にお察しいたしております。本日はお集まりいただき、本当にどうもありがとうございます。ありがとうございました。

例年この成果発表会を拝見していますが、成果がこんなに高い状態で上がってきたことに驚き、今年のレベルの高さを感じています。もちろん、個々人元々のポテンシャルがお有りだったのだと思いますが、助成金を活かしてそのポテンシャルをますますうまく使ってくれたのだと思います。

まちサポの審査基準の中には、「住みやすく働きやすい楽しいまち」にしていくために意義のある活動であること」という項目があります。今回、そういう点でも視点が広がったかな



とっております。障害を持った方からの視点、野鳥を愛する方からの視点など、今までのまちサポになかった広がりや深みが出たように思います。

「人は財産」とは良く言いますが、こうしてお忙しい中集まってくれた皆さんは、本当に財産だと思います。市民活動という場合は、現場で泥をかぶって汗をかいているみなさんが主役です。ますます頑張ってくださいと思います。

また、まちサポというシステムは、たいへんユニークで面白いシステムだと思っています。限られた助成金ではありますが、それを何とかしてもっとうまく使ってやろうとみなさん知恵を絞って活動されています。つまり、お金だけでない、プラスアルファの仕組みです。知恵とネットワークを使えば、わずかなお金でもこんなに広がりが出るのだというところに賭けたような仕組みだと言えらると思います。

来年度以降、ますます厳しい社会情勢になると思いますが、まちサポ制度をうまく使って頂きたいと思います。本日はたいへんお疲れさまでした。

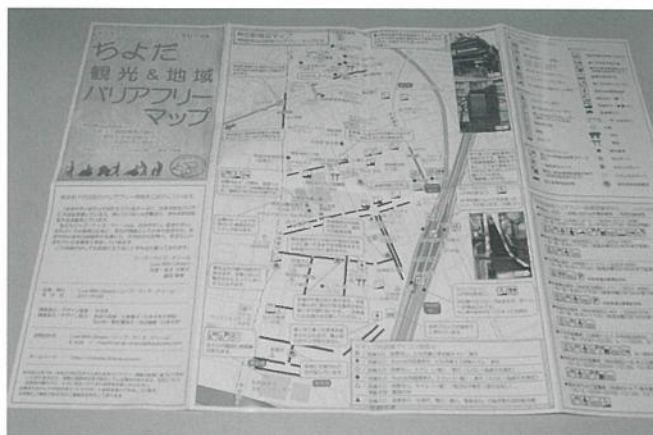


## サポート大賞は「Live With Dream」

審査員と参加団体の投票により、サポート大賞が「Live With Dream」に贈られました。

作成されたバリアフリーマップが非常に使いやすく、また千

代田が安心・安全であることのプロモーションにもなる点などが高く評価されました。このマップは、まちみらい千代田などで配布しています。詳しくは <http://chiyoda.clubneco.com/>



## 修了証の授与

「神田探偵団」に修了証が授与されました。修了証は3回にわたる助成を受け、ユニークな発想と実践活動がコミュニティの活性化に大きく貢献した活動の証として贈られます。これまで築き上げた独自の活動について、今後も引き続き展開されることを期待しています。



## 審査会委員の退任

今年度をもちまして、田熊委員、中島委員が審査会委員を退任されます。財団から感謝状、CSC（千代田まちづくりサポーターズクラブ）から花束が贈呈されました。田熊委員は第8回から第12回までの5年間、中島委員は第10回から第12回までの3年間にわたり、まちサポの審査のためにご尽力くださいました。

お二方ともに、これまでまちづくりの向上にご協力くださったことに深く感謝するとともに厚く御礼を申し上げます。これからも、まちサポの活動に対しまして、ご指導ご支援くださりますようお願い申し上げます。





## 千代田まちづくりサポートについて

「千代田まちづくりサポート」は、暮らしやすい環境づくりにつながる、みなさんのまちづくり活動を助成する事業です。この事業で交付される助成金は、当財団の賛助会員の方々の会費によって支えられています。

### ■助成対象となる活動

千代田区を中心とした市民レベルのまちづくり活動を助成します。ここでいう「まちづくり」とは、「地域に元気をもたらし、コミュニティの活性化に貢献する活動」「現在・将来にわたって住みよい魅力的な都市環境づくりに貢献する活動」を指します。

### ■募集部門

【トライアル部門】：初めて応募するまちづくり活動を助成します。助成額は一律5万円。

【一般部門】：初めて応募するグループおよび継続活動グループ（最長3年まで）を助成します。助成額は5万円～50万円。

### ■助成審査

助成審査は申請グループからの提案発表および質疑にもとづき行われます。この審査は公開の場で行われます。

### ■報告会

助成対象グループは、中間発表会（11月頃）、活動成果発表会（3月頃）で活動内容を報告します。



一般部門の審査



トライアル部門の審査

## (財)まちみらい千代田 賛助会員一覧 (敬称略)

2010年4月 現在

※本事業は、賛助会員の皆様の会費で運営されています。＜賛助会員募集中＞

### 【法人会員】

業種	会員名	
金融	興産信用金庫	
	(株)東京都民銀行 神田支店	
	(株)東日本銀行 飯田橋支店	
	みずほ信託銀行(株)	
建築土木	大林道路(株) 関東支店	
	五洋建設(株)	
	清水建設(株)	
	(株)竹中工務店	
	中央建設(株)	
	(株)ナカノフード建設	
	前田建設工業(株)	
	建築設計	(株)関東設計
		(株)楠山設計
		(株)久保工
(社)東京都建築士事務所協会 千代田支部		
(株)都市環境計画研究所		
パシフィックコンサルタンツ(株)		
	フレームデザイン(株)	
	(株)ラウム計画設計研究所	
緑花・環境	日産緑化(株)	

### 【個人会員】

業種	会員名
広告代理	(株)フィレール
IT関連	ウェブリオ(株)
	(株)メディアリンク
コンサルタント	NPO法人都市住宅とまちづくり研究会
	(株)共立エステート
不動産	エヌティティ都市開発(株)
	住友不動産(株)
	プラットフォームサービス(株)
	三井不動産(株)
	三菱地所(株)
	安田不動産(株)
その他	秋葉原商店街振興組合
	秋葉原中央通商店街振興組合
	(株)イサミヤ
	神田古書店連盟
	(株)サガワ
	東洋美術印刷(株)
	フィールファイン(株)
	富士ゼロックス(株)
	ヨシモトポール(株)

青木孝次	瀬川昌輝
安孫子政夫	武ちひろ
阿部武志	立山光昭
安藤岩三郎	田村崇彰
飯塚克治	塚越茂
池俊郎	戸田豊重
伊澤優	中川典子
今川守	二木憲一
浦田泉	早川平典
大河ひろみ	深川聡介
大塚茂	堀部剛正
岡田貫伍	幕亮二
加藤武夫	三浦博子
川崎侑孝	三原久徳
北澤悦子	三輪瑛子
後藤保路	吉岡淳也
小林勝彦	渡邊和
小林誠	他12名
佐藤正幸	
新崎光正	
須藤昭雄	

(法人:40 個人:50 計90)